週刊福祉新聞2024年８月27日号

取材メモ

偲び方にネット活用

精神病者 山本眞理さん逝く

「私はマリさんに救われた」「困ったらマリさんに相談する」――。約20年前、精神障害者の働く作業所などを取材すると、こんな言葉に出くわすことが多かった。

そのマリさんこと、山本眞理さんが7月3日、肺がんのため都内の病院で亡くなった。享年71歳。10代でうつ病と診断され、20代からは全国「精神病」者集団のメンバーに。精神障害者の権利擁護に新時代を切り開いた。

SOSをキャッチすれば精神科病院の入院患者を訪ねた。時間をかけて話を聞いた末、テレホンカードを置いて立ち去る。「眞理さんの携帯電話は鳴りっぱなしだった」と近親者は証言する。

舌鋒鋭い論客でもあった。参考人として呼ばれた国会、委員を務めた国の検討会では学者顔負けの博識ぶりを発揮し、国会議員や官僚も一目置いた。

出産、子育ても経験した眞理さん。亡くなったその日、障害者の強制不妊手術を認めた旧優生保護法を違憲だとする最高裁判決が出たのも何かの巡り合わせか。

そんな故人の偲び方も新しい時代を反映し、ネットを活用する。

製本した遺稿集を限られた近親者に配るのではなく、遺族がネット上にアーカイブを開設。眞理さんの原稿や講演録、眞理さんへの追悼文を受け付け、順次公開していくというのだ。

9月8日午後6時半から北とぴあスカイホール（東京都北区）で有志が開く偲ぶ会もオンライン併用だ。「東京まで出て来られない人とも思いを分かち合えれば」と言う。

偲ぶ会の詳細はアーカイブ（mariyamamoto@archive）または東京アドヴォカシー法律事務所（☎03・3816・2061、aoffice@giga.ocn.ne.jp）まで。（福田敏克）